

会いの旅に 一緒に行こう!

in Philippines



第10回

ストリートチルドレンと 出会う旅

フィリピンスタディツアー

2018年3月1日(木)~3月8日(木)

12.6万円+ 燃油サーチャージ (2017年11月現在4,000円) **7泊8日**

フィリピンの首都マニラとその周辺地域で、路上に生活している子どもたちやその家族、彼らを支える現地NGOのスタッフと出会う旅に出ませんか？その旅はあなたに、世界の子どもの現実をさまざまな角度からとらえ、私たち自身の現実と役割、未来を考える機会を与えてくれるでしょう。旅の案内役は、27年間「ストリートチルドレン」の取材を続ける、ジャーナリストの工藤律子とフォトジャーナリストの篠田有史です。

【費用】2人1部屋利用で126,000円+燃油サーチャージ(2017年11月現在4,000円)
ホテルはPension Natividad利用予定。
※人数の都合で3人部屋になることもあります。

【費用に含まれるもの】羽田~マニラ往復運賃(フィリピン航空利用予定)、空港使用料、空港税、宿泊費、昼食代6回分、現地でのグループ移動の交通費、現地NGOへの寄付、通訳・案内の経費。
※ほかの空港発着を希望される方はご相談下さい。

【旅の同行・案内】添乗員はいませんが、案内役の篠田か工藤が、行きの羽田空港から帰りのマニラの空港の出発フロア入口まで同行、案内をします。

【定員】8名(申し込み先着順。最少催行人数6名)

【参加条件】NGO『ストリートチルドレンを考える会』の会員になる方(年会費3千円)で、帰国後、ニュースレターに旅の感想文を書いてくださる方。

旅の行程表と訪問先は裏面をご覧ください。



■お申し込み・お問い合わせ先

株式会社マイチケット

エアワールド(株)代理店/日本旅行業協会(JATA)協力会員
兵庫県知事登録旅行代理業 142号(総合旅行業務取扱管理者:山田和生)
〒660-0084 尼崎市武庫川町4-27-1 FAX: 06-4869-5777

☎03-3222-7800

☎06-4869-3444

Email: info@myticket.jp

http://myticket.jp

マイチケット 検索

旅行企画・実施
エアワールド(株)

大阪市中央区本町2-2-14-207
官公庁長官登録旅行業第961号
(社)日本旅行業協会正会員

旅の行程表

1	3月1日(木)	午後・羽田発 夜・マニラ着	ホテル泊
2	3月2日(金)	NGO訪問	ホテル泊
3	3月3日(土)	NGO訪問	ホテル泊
4	3月4日(日)	ココナッツ・エコ・ツアー	ホテル泊
5	3月5日(月)	NGO訪問	ホテル泊
6	3月6日(火)	NGO訪問	ホテル泊
7	3月7日(水)	NGO訪問	ホテル泊
8	3月8日(木)	朝・マニラ発 午後・羽田着	



訪問するNGO(予定)

NGO「チャイルドホープ・エイジア・フィリピン」

1989年に設立された国際NGO「チャイルドホープ・エイジア」のフィリピン支部。フィリピンでは、データ収集や出版、子ども関係のセミナー等を行う一方、ストリートエドゥケーターを育成し、首都圏内のストリートチルドレンを直接訪ねて歩く「路上教育」と、貧困地域のコミュニティ支援を実施している。

NGO「バハイ・トゥルヤン」

団体名は、フィリピンの言葉で「歓迎の家」を意味する。1987年設立。現在、マニラ首都圏、ケソン、ラグーナで計3つの定住ホームや職業訓練センターを運営。また、マニラ首都圏を巡回する「モバイル・ユニット」という車を使った路上活動も行っている。路上で暮らす子どもたち、ストリートファミリーの子ども、貧困家庭で虐待や養育放棄、人身売買などの問題に巻き込まれた子どもを対象に活動している。

ココナッツ・エコ・ツアー

NGO「バハイ・トゥルヤン」の若者によって運営されるこのツアーでは、ココナッツの木を利用して人々が生計を立てている、ケソン州サン・アントニオを訪問。ココナッツオイルづくりの工程、ココナッツの木の葉を使ったぼうきなどの製作、ココナッツ水の成分、ココナッツミルクの利用法など、ココナッツの木のエコサイクルについて学ぶ。このツアーを通して、フィリピンの農村の生活をかいま見することもできる。



NGO「サルネリ・センター・フォー・ストリートチルドレン」

カトリック教会であるパラニャケ市バクララン教会の周辺のスラムや路上で、主に家族と暮らす子どもたちを対象にした一時滞在センター＝ドロップイン・センター。バクララン教会の奉仕事業の一つ。6歳から12歳の少年少女を対象に、毎週火曜日から土曜日まで、インフォーマルな教育、食事、レクリエーションを提供している。

NGO「ペアラン・パンタオ」

マニラ首都圏ケソン市のパヤタス地区にあるゴミ集積場(dumpsite)のすぐ脇にある、貧困家庭の子どもたちのためのフリースクール。その名称「ペアラン・パンタオ」は、「思いやりの学校」という意味。1989年、この地域で住民リーダーをしていたレティシア・レイエスさんが開設した。2000年7月に起きたゴミ山の崩落事故後、隣町モンタルバンに移住を余儀なくされた子どもたちのために、2003年モンタルバン校も開校。2007年12月、アジア人権賞を受賞した。

NGO「パンガラップ・シェルター・フォー・ストリートチルドレン」

「パンガラップ・シェルター・フォー・ストリートチルドレン」とは、「路上の子どもたちに夢をもたらず場所」という意味。1989年からマニラ首都圏パサイ市を中心に活動しているカトリック系NGOだ。パサイ市にある施設では、主に路上から来た少年たちを対象に活動している。その他、貧困家庭を対象にスラムでの活動も展開する。

旅行よびかけ

全員ボランティアで運営するNGO「ストリートチルドレンを考える会」

工藤律子(共同代表)

ジャーナリスト。大学院生時代から、スペイン語圏やフィリピンを中心に市民運動や貧困問題などを取材。著書は「仲間と誇りと夢と」(JULA 出版局)、「ストリートチルドレン」(岩波ジュニア新書)など多数。「マラス 暴力に支配される少年たち」(集英社)で第14回開高健ノンフィクション賞受賞。

篠田有史(運営委員)

フォトジャーナリスト。24才の時、1年の世界一周の旅に出る。旅の途中で写真家になる決意をする。以後、スペイン語圏を中心に取材をする。「コロンブスの夢」(新潮社)「ドン・キホーテの世界をゆく」(論創社)「伊達侍と世界をゆく」(河北新報出版センター)などの写真を担当。1990年から工藤と取材を始める。